

埼玉県の蚕神

矢嶋 正幸

(埼玉県立川の博物館)

はじめに

養蚕業が、我が国における主要産業の座を占めていた時代がある。幕末期、ペリー来航に端を発する諸外国との貿易における総輸出額の中で、生糸の割合は八〇パーセント近くを占めていた。明治期も、生糸の重要輸出品としての地位は揺らぐことなく、生産量は年々高まり、明治四十二年(一九〇九)には世界一の生糸輸出国となった。それは昭和十六年(一九四一)にアメリカへの輸出が途絶するまで続いた。さらに戦後になっても養蚕業を起源とする繊維業が主要産業だった時代が長く続いた。

全国各地で養蚕業が盛んであったが、その中でも埼玉県は、群馬県・福島県に次いで全国三位の産繭量を誇る「養蚕王国」であった。近世期、県内の養蚕農家は、畑の隅に植えた畔桑や山地や河川沿いの土地を桑園としてきたが、養蚕業の発展に伴い桑園面積は広がり、昭和初年の最盛期には、県全体で一〇、〇〇〇ヘクタールに達し、養蚕農家も一〇〇、〇〇〇戸を超えていた。しかし、現在の養蚕業は見る影もなく、令和六年度(二〇二四)には、七戸にまで減少している。このように、県内では産業としての養蚕は衰退してしまっただが、各地に養蚕文化の痕跡が残されている。蚕の飼育技術が未発達だった時代、蚕を安全に育て繭を無事に収穫できるかどうかは、運に左右され

ることが多かった。そのため農家は神仏へ養蚕安全、養蚕倍盛の祈りを欠かさなかったのである。今でも寺社境内の片隅には、蚕神の名前が刻まれた石造物が佇んでいるが、それは農家が養蚕成功を祈っていた痕跡である。

近年、養蚕業が盛んだった地域では、こうした蚕神についての調査が蓄積されつつある。群馬県では、富岡製糸場世界遺産伝道師協会が『群馬の蚕神―群馬県蚕神総合調査報告書―』^(註1)をまとめ、四五六件の蚕神を取り上げている。また、新井清が神奈川県内の七九件の蚕神をまとめた『かながわの養蚕信仰―調査資料集成―』^(註2)を私家本として発行している。同様に、小野川恵美子は、長野県諏訪地方の蚕神の石碑一三三件を『諏訪の蚕神』^(註3)としてまとめている。

こうした調査報告により、地方ごとに特徴的な養蚕信仰の実態が明らかになりつつある。埼玉県内における蚕神の調査をおこなうことは、養蚕信仰研究の発展に資することになるだろう。

調査対象について

本稿では、神社や石碑といった公開状態となっているものを取り上げた。個人が所蔵する神仏の掛け軸や像などは、全県的な調査は難しいため省いた。

また、養蚕信仰の対象は、諏訪や弁財天といった蛇が連想されるものや、稲荷や大黒天などの農作物全般に関係するものなど多岐にわたる。しかし、これら全てを取り扱うと蚕神としての特徴が見えづらくなってしまうため、今回は養蚕を専門とする神仏のみを取り上げた。オシラ講やオキヌサマといった習俗や、秩父市四万部寺の蚕施餓鬼や

日高市靈巖寺の蚕影山護摩祈禱といった行事についても調査対象にすべきとの意見もあるだろう。しかし、例えばオシラ講で掲げる掛け軸の尊像などは、弁財天や観音、蚕影山など多岐にわたる。そのため習俗や行事を本調査の対象に含めるとやはり特徴が曖昧になる恐れがある。養蚕関連の習俗・行事についての調査は、別稿を期したい。また養蚕の祝詞を古文書として所有したり、かつて蚕神の護符を出していた寺社もあるが、これらも同様に割愛した。さらに美里町木部や深谷市萱場にある「秋蚕の碑」のような養蚕に関わる顕徳碑についても信仰とは直接かかわらないことから除外した。その一方、慰霊碑のような信仰とかかわりの深いものは、蚕神として扱った。こうした基準に従うなら、本調査の対象は「養蚕関係信仰物」と表記した方が正確となる。しかし、他地域の調査報告書と名称を合わせた方が、今後の研究の便宜につながると考えるため、あえて「蚕神」と呼称する。

調査に当たっては『埼玉の神社』^(註6)、市町村史、シルク民俗研究会カイコログのブログ等を参考にした。その他、個人からの情報提供^(註7)を受けたものや実地調査によって見つけたものもある。基本的には本稿執筆者個人が調査したものであるから、漏れがあることはご容赦願いたい。また、追加情報を寄せていただけるとありがたい。

○地域別、年代別にみる蚕神

本調査では、一三三件の蚕神が確認できた。その所在地を地域で分けてみると、北部地域六七件、西部地域四五件、秩父地域一六件、中央地域三件、東部地域二件となる。昭和六十年（一九八五）当時における収繭量が高い地域を順に並べると、北部地域約二、〇〇〇トン、

西部地域約一、三〇〇トン、秩父地域約五九〇トン、中央地域約四〇トン、東部地域約四トンとなっており、蚕神の分布と対応している。^(註8)養蚕が盛んな地域では蚕神信仰も盛んになされていたことが分かる。創設、建立年が分かるものは四八件ある。その内訳は、近世期のものが一四件、明治時代が二四件、大正時代が三件、昭和時代が七件となる。

最も古いものが享保十九年（一七三四）に建立された所沢市堀之内にある「馬鳴尊者」である。^(註9)次に古いものが、享和三年（一八〇三）に建立された川越市笠幡の「蚕影山馬鳴菩薩」、^(註10)三番目に古いものが、文化五年（一八〇八）に建立された日高市高萩の「蚕影三尊塔」である。このように県内での初期段階の蚕神信仰は、馬鳴菩薩、もしくは蚕影山を対象として、入間郡で盛んになされていたことがわかる。入間郡の中心地、川越では絹市が立つなどして近世中期から絹産業が盛んな地域であったことが、蚕神の普及にもつながったと思われる。

その一方、北部地域では文化八年（一八一二）に建立された神川町関口の「蚕養社」だけが、近世期に遡れる事例となる。天明元年（一七八一）頃の上野国、武蔵国での各絹市場での取引量をまとめた「上州武州市場卸領主様并郡附」^(註11)を見ると、八幡山、本庄、深谷、熊谷で絹市が開催されているように、近世期の北部地域でも養蚕業は盛んにおこなわれていた。ではなぜ、北部地域は近世以来の養蚕地であったにもかかわらず、蚕神の分布が薄かったのだろうか。その要因は、本地域では複数の商品作物が生産されていたことであつたと推測する。

横浜が開港となり、輸出産業として養蚕が推奨されるようになる以前、北部地域での商品作物は、藍の比重が大きかった。文久二年（一八六五）に利根川の小島河岸から運ばれた商品では、桑が取引された日数は四日間だったのに対し、藍葉、藍玉は九日間となっており、開港後でも藍の比重が大きいたが分かる。^(註12)その他に木綿が中世以来の産物として知られおり、明治十年代の地誌である『武蔵国郡村誌』では、大里郡の特産品として藍・木綿・繭があげられている。幡羅郡東別府村出身の老農で明治から大正時代にかけて麦作改良法に貢献した権田愛三は、日取りを計画すれば麦作と養蚕の両立ができると述べているが、^(註13)こうした提言の背景には、麦の収穫と養蚕の時期が被るため、養蚕をあえておこなわない農家もいたことを物語っている。

このように多作物栽培が盛んだった北部地域では、養蚕への依存度は西部地域と比べると低かった。そして明治以降に養蚕の比重が高くなるに伴い蚕神信仰が普及していったのではないか。

さて、次に最も新しい蚕神を見てみると、昭和四十三年（一九六八）に建立された滑川町月輪の「蚕魂之碑」^(註14)となる。同碑隣には、「月輪稚蚕共同飼育所建設記念碑」があり、稚蚕共同飼育所の建設に合わせて建立されたものと知れる。昭和四十三年（一九六八）は、埼玉県内での戦後最高収繭量となる一三、二〇〇トン^(註15)を記録した年でもあった。昭和四十年代に入ると、生糸の輸入が輸出を上回るなど養蚕業は衰退の兆しを見せはじめ、およそ十年後の昭和五十五年（一九八〇）の収繭量は七、二〇〇トンにまで急落した。つまり昭和四十年代が県内で養蚕業が輝いていた最後の年代ということになる。

このように、埼玉県内での蚕神は、享保十九年（一七三四）から昭

和四十三年（一九六八）までの二百数十年間に育まれたものであるが、これは国内で養蚕業が隆盛した時期と符合している。次に各時代における蚕神の特徴を見ていくことにする。

○近世期の蚕神

近世期の年号が分かるものは一四件ある。年号は確認できないものの、明らかに近世期に遡るものも複数あるが割愛した。名称で分けると、馬鳴菩薩系が三件、蚕影山系が八件、その他として蚕養神、梅宮神社、蚕生大権現、養蚕神社の四件がある（川越市笠幡の「蚕影山馬鳴菩薩」は、馬鳴菩薩系、蚕影山系の両方でカウントしている）。このうちの蚕養神と梅宮神社は、「こかげさま」と通称されている。

このうち繰り返しとなるのが、最も古いものは、享保十九年（一七三四）の銘を持つ所沢市堀ノ内の「馬鳴尊者」となる（写真1）。馬鳴菩薩は、衣服を授ける利益があるとされ、中世以降に信仰がなされた。

二番目に古く、また最も件数の多い蚕影山系は、茨城県つくば市に所在する蚕影山神社を本拠とするものである。近世期には桑林寺を別当とした蚕影山神社では、天竺から流されてき金色姫が、常陸国筑波郡豊浦湊に辿りつき、死後に蚕に変じたという縁起をうたい、養蚕農家への布教を図った。金色姫を祀る信仰としては、蚕影山の他に、神栖市、星福寺（蚕霊神社）を発祥とする絹笠信仰、明治になって勢力を拡大した日立市、蚕養神社の蚕養信仰の三系統がある。群馬県では、蚕影山信仰が中・西・北毛地域に、絹笠信仰は中・西毛地域に分布するという地域差が見られるが、^(註16)埼玉県では絹笠神は三件なのに対し、蚕影山は八七件と、蚕影山がとりわけ多く、地域差は認められない。



写真1 所沢市堀之内
享保19年(1734)「馬鳴尊者」



写真2 日高市高萩
文化5年(1808)「蚕影三神塔」

ちなみに昭和二年(一九二七)に星福寺から馬鳴菩薩を勧請してきた上里町大光寺では、蚕影山として祀っている。さらに人神を祀った梅宮神社のことを地元では「こかげさま」と呼んでいる。このように蚕神の代名詞として蚕影山が使われるケースもあり、蚕影山と呼ばれながらも、来歴としては筑波山麓以外から来たものも存在すると推定される。

さて、近世以前に発行された蚕影山の御影は、勢至菩薩を本尊とし脇侍に金色姫と霖異大王が配置される三尊像として描かれていた。日高市高萩の「蚕影三尊像」は、この御影を写したものになっている(写真2)。しかし、中には勢至菩薩ではなく、蚕影山の本地を馬鳴菩薩とする言説もあった。川越市笠幡では「蚕影山馬鳴菩薩」と蚕影山と馬鳴菩薩が併記されているが、蚕影山を蚕神の代名詞として使用したことによって生じた齟齬だろう。

次に、石碑の建立者を見ると、所沢市では個人、川越市笠幡では「蔵ヶ谷戸講中」という小字クラスの講中、神川町関口では「関口村中 植竹村新田講中」という近隣の三村に跨る講中と、様々なレベルの講によって建立されていたことがわかる。

○明治時代の蚕神

明治時代は二四件の蚕神が確認され、最も信仰需要が高まった時代といえる。名称を見てみると蚕影山系が一九件となっており、蚕影山信仰は近世期に引き続いて隆盛を誇った。その他の名称としては、飯能市の「蚕養運徳尊」がある。明治時代に入ると、日立市の蚕養神社が金色姫の本拠として力を入れて布教するようになっていた。蚕養は、一般名詞としても使われることから、「蚕養運徳尊」が日立市から直接影響を受けたものかどうかは確かではないが、可能性として附記しておきたい。

さて、この時期に特徴的なのが、霜などの災害をきっかけとして蚕影山が勧請された事例が多いことである。そうした事例を八件確認できる。

- ・ 深谷市山河では、晩霜のため死んだ稚蚕を境内に埋め、その上に祠を建てた。
- ・ 深谷市小前田では、明治十五年の降霜で死んだ蚕を鎮守境内に埋めて、その上に蚕影を勧請した。
- ・ 鳩山町大橋では、明治十五年の降霜をきっかけに蚕影神社を勧請した。
- ・ 熊谷市妻沼小島では、明治二十六年の霜害によって死んだ蚕を埋めて石碑を建立した。
- ・ 深谷市境では、明治二十六年の降霜によって桑葉が枯れたことにより死んだ蚕を土に埋め、その上に蚕影神社を勧請した。
- ・ 美里町倉林・河和地区では、霜害を受けて死んだ三齢蚕を慰霊する

石碑の中には、建立の経緯を記したものもある。いわゆる自然災害
伝承碑として有益な記録であることから、翻刻したものを紹介する。



写真5 深谷市原郷
大正10年(1921)「蚕影霊神碑」



写真3 熊谷市妻沼小島
明治26年(1893)「蚕影山神社」



写真4 深谷市境
明治35年(1902)「蚕影山神社」

ため蚕影山霊神の石碑を明治二十七年に建てた。
・本庄市児玉町飯倉では、明治三十年頃に霜害で死んだ蚕を埋葬して
石碑を建てた。
・深谷市原郷では、明治四十三年六月九日の火災と八月十一日の洪水
で死んだ蚕の慰霊のため蚕影霊神碑を建てた。

【翻刻1】熊谷市妻沼小島「蚕影山神社」(写真3)

(表面)

蚕影山神社

(裏面)

古来有蟲祭者也蓋蝗螟為害禾果殺之故祭其土精乎誠／者所以也夫災
人生混虫且然況於益人生者乎頃明治二十六／年五月六日繁霜草木悉
枯乾而如冬野時既至於蚕兒發育／而初眠或二眠然而一朝失飼育糧無
如之何歎極而之乃□之土漫／其殤之幾億矣哉嗚呼此災雖謂在蚕兒抑
亦人災也茲全年／九月有志相謀卜地建之以祀曰先王化民 令后妃桑
蕃殖國產／冠於万邦 茲春霜害 蚕兒悉殤 載齋嘗之 慶以轉殃
寄付者氏名省略

【翻刻2】深谷市境玉津島神社「秋蚕碑」(写真4)

(表面)

秋蚕碑

明治癸巳季晚春有霜害之憂春蚕不育里民悉困難矣則庶／民協力立經
濟之方針計救助法卒先起於組合飼育秋蚕名／称玉精組組員陸続有加
盟矣更撰組員中派遣長野県東筑／摩郡松本撰善良之蛹卵勉勵飼育斯
有年矣先□明治初季／秋蚕無益為有害論說不少厥後駸駸而悟無害有
益今乎穰／蚕之為有益人皆知之我社員數歲之久不見違作焉各地漸／
漸聞其風說來請入会者較及千五百餘名是憑組合規律之／善與役員諸
氏之真意矣今粵組合諸氏等欲鳩資以建碑首／唱庶彥酌功勞傳莢榮不
朽而囑余乎文余未知斯道雖然視／益國家不少不耐欣喜乃叙糾合組織
之梗概以應之為銘曰

優劣吝與 逸豫者淪 宜哉勤勵 斯秋糸鮮
 玉精其粹 殆專洋津 噫嘻表巧 佐家榮人
 明治三十五季十月 秋岬蓮沼康實撰書并篆額
 (裏面)
 寄付者氏名省略

【翻刻3】深谷市原郷「蚕影山靈神碑」(写真5)
 (表面)

蚕影山靈神碑
 官幣大社氷川神社宮司正六位勲六等額賀大真篆額
 斎藤菊次郎者大里郡幡羅邨人也世住楡山神社南自少時聞／敬神愛国
 之説深信之業農長春蚕与同志者協力起大日本蚕／種協會益改良蚕種
 而抃張販路矣好俳句号冷香夙紹述祖翁／之遺志謀斯道之興隆為世人
 所知也于時明治四十三年六月／九日蚕室有火災春蚕悉燒死七月至長
 野県巡視数郡精選秋／蚕種善良者販売諸府県八月十一日関東大水利
 根荒川二川／漲溢浸于田野水量達二十尺秋蚕児溺死頗多焉冷香慨然
 歎／曰吾従斯業二十有余年常期建蚕影靈神碑報神德未遂之今／見此
 災害豈不悲乎速欲建其碑為亡蚕祭其靈為蚕業祈福利／公表其旨意得
 多数贊助者而建其碑於楡山神社側

前代議士 塚田太郎撰 東洲柳田西謹書
 (裏面)
 寄付者氏名省略

群馬県内にも同様の自然災害を機に建立された石碑が所在している。青山雅史によれば明治二十六年霜害に關連する碑は、合計一四件が確認されている。^(註17) 石碑の存在は、霜害の被災地であったことを物語っており、複数の自然災害伝承碑を照らし合わせることで、本災害の規模を把握することができる。

次に、建立者については、本庄市児玉町飯倉の「蚕影山神社」では、当所氏子中となっているように、一村範圍での信者が集まって建立したものが一方、深谷市の「秋蚕碑」では、玉精組という組合が主体となっている。その寄付者の在地を見ると、蚕種製造者が本拠とする長野県ともに、上原・上野台・柏合・小前田・東五十子・藤沢といった深谷市域周辺の地名が並ぶ。長野県を別にしてもその範圍は近世期の講中よりも広い地域から集まっている。

○大正時代の蚕神

大正時代では、三件の蚕神が確認される。小鹿野町の絹笠神社を除くと、蚕の慰霊のために建立されたものとなる。大正十年(一九二二)に建立された深谷市原郷「蚕影靈神碑」については先述した通りである。大正十二年(一九二三)に建立された本庄市大正院の「蚕蛹供養塔」には、本庄市域を中心にした八社の製糸所や糸繭商の名前が連ねられている。本件は、糸繭商の呼びかけにより建立されたものとされるが、昭和初期に製糸所による農家からの直接買付が始まり、中間業者である糸繭商が衰退するにしたがって供養祭もおこなわれなくなったとされる。^(註18) しかし、平成二十三年(二〇一一)に埼玉県製糸協会会長を務めた小林嘉朗氏が施主となり、供養祭が再興され

た。それ以来、毎年五月二十八日に供養がおこなわれており、県内でも少なくなつた現在もおこなわれている養蚕行事となっている。

○昭和時代の蚕神

昭和時代のもものは、七件が確認できる。蚕影山関係が四件と、蚕の慰霊に関するもの三件である。

熊谷市柿沼の「蚕影神社」は、昭和十三年（一九三八）に養蚕実行組合が建立したものである。祭典で使用された祭詞の案文は、片倉石原製糸所が作成したものであつて、組合設立には近隣の製糸工場が関与していたことが知れる。また、滑川町月輪の「蚕魂之碑」は、月輪養蚕組合が昭和四十三年（一九六八）に建立したものである。こうした養蚕組合が成立した経緯が分かるものとして、上里町安盛寺に所在する「蚕影山建立記念碑」がある。

【翻刻4】上里町神保原町「蚕影山建立記念碑」（写真6）
（表面）

蚕影山建立記念碑

我國養蚕發祥ノ地ニ位スル本村ハ古來養蚕ヲ唯一ノ副ノ業トセリ願
レハ大正元年同志廿三人ヲ以テ組合ヲ創立ノ以テ二十有八年ノ歲月
ヲ重ネ其間組合員一致協力養蚕ノ改良組合ノ發展ニ努力シ屢々表
彰ノ榮ヲ蒙リタル為ノ続々加入者ヲ迎ヘテ全組合員數百十餘名資産
參千餘圓ノ有スルニ至レリ現石神養蚕実行組合是レナリ偶々多ノ
年ノ宿望タル養蚕ノ守護神蚕影山勸請ノ議起ルヤ時恰ノモ日支事變
中ナルニ拘ラス熱誠ナル組合員ノ欣然之ヲノ可決シ有力者ノ後援ヲ

仰キテ地ヲ此処ニトシ社祠ヲ建ノ立シ永ヘニ蚕作ノ豊満ヲ祈リ一村
ノ繁榮ト国家ノ隆昌ノトニ貢獻セントシ工既ニ竣リ又茲ニ記念碑ヲ
建テ由来ノ刻シ後世ニ傳ヘント欲ス

昭和十四年四月十三日

埼玉県養蚕業組合会長 石坂養平 篆額撰書

（裏面）

寄付者氏名略す

本碑によれば、大正元年（一九一〇）に二三名で結成された組合が、二十八年を経て会員数二〇名を超す石神養蚕実行組合に発展したので、蚕影山を勸請することにしたという。もともとは築山の上に石祠と本碑が建立されていたが、後年山は崩されて、現在は安盛寺境内に設置されている。

養蚕組合は、明治末期から大正時代にかけて各地で設立されたが、昭和六年（一九三一）に公布された蚕糸業組合法によって養蚕実行組合と名称が変更された。組合では、共同販売購買、稚蚕共同飼育など、共同事業を推進した。養蚕業が個人的な営みから共同体によるものへと色彩が移っていったのが、昭和時代の特徴であった。この時期に組合による蚕影神社の勸請が進むのは、祭典をおこなうことでより組合の結束を強化する狙いもあったかと思われるが、組合と蚕影山の関係を正確に理解するためには、より詳細な調査が必要となる。

大正時代に引き続き、蚕の慰霊塔が建立された。熊谷市万平町の「蚕霊塔」は、埼玉県蚕糸業組合が昭和三十六年（一九六一）に、生糸生産のために犠牲となつた繭の慰霊のために建立したものである。

「蚕霊塔」がある万平公園に隣接して繭検定所があったことから、この地が選ばれたと思われる。嵐山町越畑の昭和十三年（一九三八）「蚕霊供養塔」や、県内最後の蚕神となる滑川町月輪の昭和四十三年（一九六八）「蚕魂之碑」（写真7）もまた、蚕の慰霊に関わるものとなる。

これら昭和時代の慰霊の特徴としては、明治時代と異なり災害で死んだ蚕に対してではなく、養蚕・製糸の工程で死んでいく蚕を対象としたことにある。この背景には、明治から昭和にかけて動物観の変化があったと推測されるが、こちらも正確な理解をするためには、より詳細な調査が必要となるだろう。



写真6 上里町神保原
昭和14年(1939)「蚕影山建立記念碑」



写真7 滑川町月輪
昭和43年(1968)「蚕魂之碑」

○本調査の課題について

本調査では、冒頭に述べたように習俗や行事などは割愛した。ちなみに県内における養蚕習俗を概見すると、入間郡を中心にしてオシラ講が盛んであるのに北部地域では見られないという特徴がある。その代わり、大里郡では明治初年から流行神的に広がったオキヌサマ信仰

の分布が見られる。これは大里郡域では、近世期まで蚕神の分布が薄かったが、明治以降にその需要が生じたところにオキヌサマ信仰が入り込んだためと推測される。このようにこれまで蓄積されてきた養蚕に関わる民俗事例と本調査結果を照らし合わせることで、その習俗についての理解を深めることができるだろう。

また、直接養蚕と結びつかない神仏も割愛している。しかし、割愛した神仏の中には、ほとんど養蚕専門と見なして良い事例もある。その一例として、所沢市北野天神社の境内社である文字天神社がある。

文字天神社は、「はた神様」と通称され、現在も四月八日に養蚕祭が実施されている。^(註19) 本神社は、慶長年間に養蚕神として信仰されていた

形跡があるという。また、本庄市児玉町高柳の虚空蔵尊では、毎年一月十三日に縁日として「蚕影山のお祭り」があり、境内の井戸にカイコザルを沈めて占いをしていたという。^(註20) こうしたもともとは専門外だった神仏が、養蚕の御利益を獲得するようになった経緯を説明することは、民俗信仰研究において大きなテーマとなるだろう。特に稲荷神社は、養蚕の御利益を専らにうたい信者を獲得していったところも多い。いかにして一つの寺社が養蚕の利益を売り物として勢力を拡大したかを解明することも今後の課題である。

最後になるが、本調査は埼玉県に限定したものであるが、他地域での蚕神の調査が進むと、蚕神の実態により深く迫ることができるようになる。他地域での調査が進むことを期待したい。

註

(註1) 富岡製糸場世界遺産伝道師協会（蚕神総合調査プロジェクトチーム）／

編『群馬の蚕神―群馬県蚕神総合調査報告書―』富岡製糸場世界遺産伝道師協会 二〇一八年

(註2) 新井清『かながわの養蚕信仰―調査資料集成―』私家本 一九九八年

(註3) 小野川恵美子『諏訪の蚕神』私家本 二〇一八年

(註4) 鳩山町史編纂委員会／編『鳩山の修験』鳩山町 二〇〇三年

(註5) 埼玉県／編『新編埼玉県史別編一』埼玉県 一九八八年 四三〇―四三二頁には、県内における代表的な養蚕信仰の護符が掲載されている。

(註6) 埼玉県神社庁神社調査団／編『埼玉の神社 全三巻』埼玉県神社庁 一九八六年 一九九二年 一九九八年

(註7) 情報提供をくださった清水明氏、金子敏之氏、守屋泰平氏に感謝申し上げます。

(註8) (註5) 前掲書 四一五頁

(註9) 馬鳴菩薩は、秤や糸を持った騎乗像が一般的であるのに対し、本像は巻物らしきものと数珠を持った僧形像である。果たして本像が、当初から馬鳴菩薩として制作されたものかは疑問が残る。

(註10) 二〇二五年二月一九日に現地調査した際には、笠と基礎を残して塔身部分が消失していた。

(註11) 柿原謙一／編『秩父地域絹織物史料集』埼玉新聞社 一九九五年 八五頁

(註12) 熊谷市教育委員会／編『熊谷市史資料編五』熊谷市 二〇二二年 四七五頁

(註13) 権田愛三『実験麦菽栽培改良法増訂(三版)』埼玉農報社 一九一三年 三六・三七頁

(註14) (註5) 前掲書 四四〇頁では、沖大関養蚕組合が昭和四六年(一九七二)に建立した石碑が紹介されているが、どのような石碑であるか分からず、現地調査でも発見できなかったため、本リストでは割愛している。

(註15) 「埼玉県生産振興課／埼玉県の養蚕・絹文化の継承について」<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0904/909-20091214-442.html> (二〇二五年二月二〇日閲覧)

(註16) (註1) 前掲書 二四一頁

(註17) 青山雅史「群馬県南部における雹霜害碑とその建立経緯の検討」『群馬

大学共同教育学部紀要 人文・社会科学編』七一 二〇二二年

(註18) 本庄市教育委員会文化財保護課／編『本庄市の養蚕と製糸』本庄市教育委員会文化財保護課 二〇一九年

(註19) 所沢市教育委員会文化財保護課／編『お蚕さま今昔物語』所沢市教育委員会 二〇二四年 一五七頁

(註20) 井上善治郎『まゆの国』埼玉新聞社 一九七七年 五四頁

	郡	市町村	住 所	所 在 地	名 称	形態	創設年	西暦	備 考	典 拠	
66	北部	大里郡	寄居町	末野	花園御嶽城跡	蛭影山大神	石碑	明治21年	1888	「蛭影山大神」「明治二十一年三月吉日 願主小峯定吉 渡辺辨次郎 御嶽碑群の中にある。」	実地調査
67	北部	大里郡	寄居町	風布	釜山神社	蛭神像	石像				カイコロジー
68	比企郡	小川町	中爪1039	八宮神社	蛭影山	石祠	昭和12年	1937	昭和50年代くらいまではお札を出していた。「蛭影山」「昭和十二年四月十八日 中爪養蚕実行組合建之」	埼玉の神社	
69	比企郡	小川町	木呂子303	吉野神社	梅の宮神社	境内社	安政6年	1859	安政6年に養蚕を奨励した願主小野朝右衛門を祀る。通称を「こかげさま」という。	埼玉の神社	
70	比企郡	小川町	飯田681	飯田神社	養蚕神社	石祠	嘉永元年	1848	「養蚕神社」「嘉永元星舎戊申六月吉日 醫王山法印有養」	カイコロジー	
71	比企郡	嵐山町	菅谷	槻川岸	蛭影山	石祠			槻川岸にたつ巨石の上に石祠が祀られる。	菅谷村報道	
72	比企郡	嵐山町	越畑1086	宝楽寺	蛭霊供養塔	石碑	昭和13年	1938	「蛭霊供養塔」「昭和十三年十二月」「願主 市川兵藏」	実地調査	
73	比企郡	滑川町	月輪418	月輪神社	蛭魂之碑	石碑	昭和43年	1968	「蛭魂之碑」「昭和四十三年八月吉日 施主月輪養蚕組合」隣には同年建立の「月輪養蚕共同飼育所建設記念碑」もある	実地調査	
74	比企郡	鳩山町	大橋619	黒石神社	蛭影神社	境内社	明治15年	1882	明治15年に桑葉が豊で被害を上げたことに起因して供えた。氏子は、笹を持ち帰り、その年初めて熟した蚕を笹の上に載せた。	埼玉の神社	
75	入間郡	入間市	根岸446	稲荷神社	蛭影山神社	境内社	明治22年	1889	明治22年に分霊した。近隣30余村に代参講が成立されるほど、賑わった。	埼玉の神社	
76	入間郡	入間市	豊岡3-7-32	豊岡愛宕神社	蛭影神社	境内社	文政2年	1819	文政2年3月に勧請。昭和20年に当地に移転。昭和29年4月8日に遷座祭。祠は、泰安殿を再利用している。	カイコロジー	
77	入間郡	入間市	宮寺2324	長久寺	馬鳴大士	境内社			4月19日(近年は4月第3日曜日)に祭りを実施。	カイコロジー	
78	入間郡	入間市	高倉3-3-4	高倉寺	馬鳴堂	境内社			以前はお堂があったが、今は本堂に合祀。	カイコロジー	
79	入間郡	川越市	笠幡1280	尾崎神社	養蚕社	境内社				埼玉の神社	
80	入間郡	川越市	笠幡4431	箱根神社	養蚕社	境内社				埼玉の神社	
81	入間郡	川越市	笠幡4431	箱根神社	蛭影山馬鳴菩薩	石祠	享和3年	1803	「蛭影山馬鳴菩薩」「享和三年 蔵ヶ谷戸講中」	埼玉の神社	
82	入間郡	川越市	笠幡2001-6	浅間神社	蛭影山大権現	石碑			富士塚の中にある。「蛭影山大権現」「文化十癸酉年三月 笠幡村上宿講中」	カイコロジー	
83	入間郡	川越市	笠幡1689-1	三島日光神社	蛭影大権現	石碑	文化12年	1815	「蛭影大権現」「文化十二年 下宿講中」	カイコロジー	
84	入間郡	川越市	南大塚2-4-7	菅原神社	蛭霊山	石碑	明治27年	1894	「蛭霊山碑」「明治二十七年八月建立」	カイコロジー	
85	入間郡	坂戸市	厚川135	大家神社	蛭影山神社	境内社			八坂神社、金尾羅神社と並んで祀られている。	埼玉の神社	
86	入間郡	狭山市	加佐志174	羽黒神社	馬鳴大士	祠			本殿内に安置	埼玉の神社	
87	入間郡	狭山市	下奥宮1465	亀井神社	蛭影山大権現	石祠	文政13年	1830	「蛭影山大権現」「文政十三年 願主講中」	埼玉の神社	
88	入間郡	狭山市	笹井1962	白鬚神社	蛭神社	境内社				埼玉の神社	
89	入間郡	狭山市	上広瀬983-2	浅間神社	蛭影神社	境内社			富士塚の中に祭られる。8月21日の火祭りでは、蛭影神社前に護摩木が立てられる。	カイコロジー	
90	入間郡	狭山市	狭山9-7	峰愛宕神社	蛭影神社	境内社			由緒不明。昭和11年に改築。	カイコロジー	
91	入間郡	狭山市	上奥宮508	梅宮神社	蛭影神社	境内社				カイコロジー	
92	入間郡	狭山市	広瀬東2-39	路上	養蚕神社	祠				カイコロジー	
93	入間郡	狭山市	柏原2298	常楽寺	蛭生大権現	石祠	文政4年	1821	「蛭生大権現」「文政四年辛巳四月 講中」	狭山市史 民俗編	
94	入間郡	狭山市	東三ツ木8-1	業師堂	馬鳴大菩薩	石碑	文化5年	1822	「馬鳴大菩薩」「文化五辰二月吉日」	狭山市史 民俗編	
95	入間郡	志木市	上宗岡4-27-20	羽根倉浅間神社	蛭機神碑	石碑			「蛭機神碑寄附連名」富士塚の中にある。	カイコロジー	
96	入間郡	鶴ヶ島市	五味ヶ谷169	平玉神社	蛭霊神社	境内社				清水明資料	
97	入間郡	鶴ヶ島市	田ヶ谷617	高德神社	蛭神社	境内社			藤兼水川神社の境内社だったものを、当地に移転。	鶴ヶ島市史	
98	入間郡	所沢市	西新井町17-35	熊野神社	蛭養	境内社			『境内古絵図』には、蛭養が載っているが、現存しない。	埼玉の神社	
99	入間郡	所沢市	上新井2-6-10	六所神社	蛭影神社	境内社			明治29年9月の扁額が掛かる。	埼玉の神社	
100	入間郡	所沢市	上山口1878	熊野神社	蛭影山大権現	石碑	嘉永7年	1854	「常陸国 蛭影山大権現」「武蔵国入間郡 新堀村大権現 護摩講中」「嘉永七年四月勧請」	カイコロジー	
101	入間郡	所沢市	堀之内146-1	聴松軒	馬鳴尊者	石像	享保19年	1734	巻物と数珠を持った僧形像「享保十九甲寅 秋彼岸中」	カイコロジー	
102	入間郡	所沢市	—	個人宅	蛭影山大権現	石祠	文久元年	1861	「月山 湯殿山 羽黒山 三山大権現」「蛭影山大権現」「西国 秩父 坂東 百ヶ所供養塔」「願主 桑木之左衛門 文久元年八月八日」	カイコロジー	
103	入間郡	飯能市	上名栗217	星宮神社	蛭影社	境内社				埼玉の神社	
104	入間郡	飯能市	芦荻場389	永昌寺	蛭養運徳尊	石碑	明治21年	1888	「蛭養運徳尊」「明治二十一年秋彼岸 芦荻場村水文拜立」	カイコロジー	
105	入間郡	飯能市	芦荻場381	赤城神社	蛭影山	境内社				飯能市史資料編	
106	入間郡	飯能市	下川崎60	下川崎八坂神社	蛭影	境内社				埼玉の神社	
107	入間郡	飯能市	下加治160	白子神社	蛭影社	境内社				埼玉の神社	
108	入間郡	日高市	高萩2066	下高萩公会堂	蛭影三尊塔	石像	文化5年	1808	「文化五年 高麗郡下高萩村」「奉詔誦普門品供養塔」「文化五年戊子年十二月吉日」	カイコロジー	
109	入間郡	日高市	中鹿山394-14	八幡神社	蛭影神社	境内社				実地調査	
110	入間郡	ふじみ野市	苗間	個人宅	蛭影山	石祠			個人の屋敷神としている。	埼玉県入間東部地区の民俗	
111	入間郡	ふじみ野市	駒林	個人宅	金蚕種神社	不明			個人の屋敷神としている。	上福岡市史	
112	入間郡	越生町	津久根23	津久根八幡神社	蛭影神社	境内社	明治年間	1868	明治年間に建立。大正時代末期に移転した。	カイコロジー	
113	秩父郡	秩父市	下影森1455	琴平神社	蛭影社	境内社			7月最終日曜日に、八幡、蛭影、諏訪、稲荷といった境内社の大祭を八朔の節句として、屋台を出しておこなう。	埼玉の神社	
114	秩父郡	秩父市	桜木町21-3	定林寺	蛭影神社	境内社			定林寺の境内に諏訪神社と並んで祀られる。	実地調査	
115	秩父郡	秩父市	寺尾1907	諏訪神社	蛭影社	境内社				埼玉の神社	
116	秩父郡	秩父市	上影森255-1	諏訪神社	蛭神社	境内社				埼玉の神社	
117	秩父郡	小鹿野町	両神薄1421	御霊神社	蛭神	境内社				埼玉の神社	
118	秩父郡	小鹿野町	藤倉1335-6	絹笠神社	絹笠神社	祭神	大正13年	1924	大正13年建立	清水明資料	
119	秩父郡	小鹿野町	両神小森1987	蛭影神社	蛭影神社	神社				実地調査	
120	秩父郡	長瀬町	井戸225	岩根神社	蛭神像	石像	明治40年	1907	「蛭守護神 明治四十年三月十七日 当所柳井仁十郎納之」	実地調査	
121	秩父郡	皆野町	皆野238	椋神社	蛭神社	境内社			明治40年に愛宕社境内にあったものを八坂神社に合祀	金子敏之資料	
122	秩父郡	皆野町	上日野沢字杉ノ入	道端	蛭霊神社	石祠			戦前は群馬県高崎からも参拝者が来た。蘭玉の貸し出しをおこない、翌年に倍にして返した。4月第一日曜日にお祭りをおこない、お札を出す。	金子敏之資料	
123	秩父郡	皆野町	下日野沢字宮2357	沢辺神社	蛭霊神社	合祀			沢辺神社に合祀。	金子敏之資料	
124	秩父郡	皆野町	大洲字橋場418-2	蔵殿蔵王権現神社	蛭種子神社	境内社			旧暦1月14日が祭礼日だった。	金子敏之資料	
125	秩父郡	皆野町	三沢1960	二十三夜寺	馬鳴菩薩	仏像			本堂で祭る。5月の縁日では養蚕講がおこなわれる。	実地調査	
126	秩父郡	横瀬町	川久保	道端	蛭影山	石碑	文久3年	1863	「蛭影山灯籠 文久三年十月吉日建立」現物は破損している。	横瀬町地誌	
127	秩父郡	横瀬町	横瀬511-3	古御嶽神社	養蚕大神	石碑			「女人講 十八人」	横瀬町地誌	
128	秩父郡	横瀬町	芦ヶ久保	富士浅間神社	蛭影神社	境内社			富士浅間神社に蛭影社が合祀されている。	横瀬町地誌	
129	中央	足立郡	さいたま市	桜区白銀68	慶福寺	馬鳴菩薩題目塔	石碑			題目の下に馬鳴菩薩と彫られている。「願主 矢作常吉」	清水明資料
130	中央	足立郡	鴻巣市	大芦1031	水川神社	合祀			明治40年に新在家にあった養蚕社を合祀した。	埼玉の神社	
131	中央	足立郡	鴻巣市	本宮町1-9	蛭影山神社	境内社			合祀社に祀られている。	実地調査	
132	東部	北葛飾郡	久喜市	菖蒲町下宿間2691-20	富士塚古墳	蛭影大神	石碑	明治27年	1894	「蛭影大神、木花咲耶姫、豊受姫神」「明治二十有七年」	実地調査
133	東部	北埼玉郡	白岡市	篠津1798	久伊豆神社	蛭影神社	境内社			『埼玉の神社』では蛭影神社とあるが、現地では様名神社となっている。	埼玉の神社

埼玉県内の蚕神一覧 (養蚕を専門にしている信仰物をつづめた。稲荷・諏訪・弁天などの副次的に養蚕信仰を取り込んでいるものは除き、養蚕信仰を主としているものを取り上げた)

	郡	市町村	住所	所在地	名称	形態	創設年	西暦	備考	典拠
1	児玉郡	神川町	上阿久原660	八王子神社	蚕影山大神	石碑			「蚕影山大神」	清水明資料
2	児玉郡	神川町	元阿保1	阿保神社	蚕影大神	石祠			古峰社、天満宮、神明宮、稲荷大神、白山社、八坂社、十二天社の石祠と一緒に並ぶ。	埼玉の神社
3	児玉郡	神川町	関口38	今城青坂稲実池上神社	蚕養神	石祠	文化8年	1811	地元では蚕影社と呼び、4月23日に「蠶影大神御守護」の札を授与した。石祠に「蚕養神 願主関口村中 榎竹村新田謙中 文化八年三月吉日施主 授生風音経十萬巻榎竹村別当清常院」とある。	埼玉の神社
4	児玉郡	神川町	二ノ宮750	金鑽神社	蚕影神社	境内社	明治36年	1903	明治36年に木村九蔵を譲って勧請された。平成8年まで4月17日に祭りをおこなった。	埼玉の神社
5	児玉郡	神川町	小浜640	小松神社	蚕影神社	境内社				埼玉の神社
6	児玉郡	神川町	新里2079	白岩神社	蚕影神社	境内社				埼玉の神社
7	児玉郡	神川町	四軒在家134	日枝神社	蚕影神社	境内社				埼玉の神社
8	児玉郡	上里町	大御堂1131-1	三嶋神社	蚕影神社	境内社			2月25日に祭りがある。	埼玉の神社
9	児玉郡	上里町	長浜1294	丹生神社	蚕影神社	境内社			3月20日が祭り。燈籠や万灯を立てた。機神様の行事は、初年と一緒に行い、女性で飲食する。居坐機が盛んだったところの名残。	埼玉の神社
10	児玉郡	上里町	勅使河原1864	大光寺	蚕影山	境内社	昭和2年	1927	昭和2年に茨城県神栖市の星福寺から馬鳴菩薩を勧請。令和4年ごろから祭り休止。	実地調査
11	児玉郡	上里町	金久保701	陽雲寺	蚕影山大神	石碑	明治44年	1911	「岩切飯綱大神 加波山三枝神社 蚕影山大神 正二等第八級大講義 神道教師 飯田彦一郎」	実地調査
12	児玉郡	上里町	神保原町263-1	安盛寺	蚕影山建立記念碑	石碑	昭和14年	1939	昭和14年に養蚕改良組合が建立したもの。石碑の前には築山上にあった石祠が置かれている。	実地調査
13	児玉郡	上里町	大御堂736	浅間神社	蚕影神社	境内社			富士塚の登り口に位置し、中にはダルマが供えてある。	カイコロジー
14	児玉郡	上里町	長浜1370	長幡部神社	蚕影神社	境内社			3月20日に祭りがあった。旧家屋敷地にあったものを神社に遷した。	埼玉の神社
15	児玉郡	本庄市	西五十子632-2	大寄諏訪神社	養蚕社	境内社				埼玉の神社
16	児玉郡	本庄市	栗崎152	金鑽神社	蚕影大神	石碑	明治33年	1900	4月13日にお祭りがあり、五色の龍いしが配られ、観音を祀った。石碑には、女神像の彫刻あり。「蚕影大神」「明治三十三年四月氏子中」	埼玉の神社
17	児玉郡	本庄市	寿2-1-21	諏訪神社	蚕影	境内社				埼玉の神社
18	児玉郡	本庄市	上仁手212	諏訪神社	養蚕神社	境内社			祭典では、最後に養蚕神社の前で祝詞を挙げた。	埼玉の神社
19	児玉郡	本庄市	仁手353	蚕影山神社	蚕影山神社	境内社				埼玉の神社
20	児玉郡	本庄市	下野堂1-21-2	二柱神社	蚕影大神	石碑	明治24年	1891	「蚕影大神」「明治二十四年」	埼玉の神社
21	児玉郡	本庄市	東五十子10	若電神社	絹笠・蚕影神社	境内社			祭典は、御嶽神社の祭日に合わせておこなっていたが、平成3年には養蚕農家がなくなってしまう。	埼玉の神社
22	児玉郡	本庄市	児玉町稲沢225	住吉神社奥宮	蚕影山大神	石碑				清水明資料
23	児玉郡	本庄市	児玉町入浅見899	金鑽神社	絹笠神社	境内社				実地調査
24	児玉郡	本庄市	児玉町保木野314	御霊稲荷神社	蚕影神社	石祠				埼玉の神社
25	児玉郡	本庄市	児玉町飯倉	道端	蚕影山神社	石碑	明治33年	1900	明治30年ごろ、霜の被害で死んだ蚕を埋葬した後、石碑を立てた。天王塚にある。「蚕影山神社」「明治二十三年庚子二月二十二日 当所氏子中」	埼玉の神社
26	児玉郡	本庄市	小島2-15-24	蚕影山古墳	蚕影山	石祠			「蚕工芸所」	カイコロジー
27	児玉郡	本庄市	本庄2-4-8	大正院	蚕婦供養塔	石碑	大正12年	1923	「蚕婦供養塔 大正十二年三月」	カイコロジー
28	児玉郡	美里町	倉林・川輪	—	蚕影山霊神	石碑	明治27年	1894	現在地不明。「蚕影山霊神」「明治二十七年旧六月廿三日 倉林川輪氏子中」	新編埼玉県史 別編1
29	児玉郡	美里町	下見玉322	金鑽神社	蚕影大神	石碑	明治38年	1905	「蚕影大神」「明治三十八年六月二日 田畑氏」	埼玉の神社
30	児玉郡	美里町	南十条549	初玉稲荷神社	蚕影大神	石碑			「蚕影大神」	埼玉の神社
31	児玉郡	美里町	猪俣63	東大澤神社	蚕影山神社	境内社			明治43年に移転してきたもの。	埼玉の神社
32	児玉郡	美里町	広木1	取越神社	蚕影	境内社				埼玉の神社
33	児玉郡	美里町	中里8	雷電神社	蚕影	境内社				埼玉の神社
34	大里郡	熊谷市	石原1122	真宗寺	蚕影山堂	境内社			勢至蚕影山といひ、4月15日にお祭りがあった。	埼玉の神社
35	大里郡	熊谷市	大塚368	熊野神社	豊蚕神社	合祀			明治12年に合祀。「百貫蚕」を飼う家も多く、合祀以前は熊野神社よりも大きかった。	埼玉の神社
36	大里郡	熊谷市	柿沼	道端	蚕影大神	石碑	昭和11年	1936	「蚕影大神 昭和十一年十二月」	実地調査
37	大里郡	熊谷市	間々田248	稲荷神社	蚕影	境内社			明治40年の願願のほか、製糸会社から奉納された石灯籠などがある。	埼玉の神社
38	大里郡	熊谷市	相上1	吉見神社	養蚕社	境内社				埼玉の神社
39	大里郡	熊谷市	万平町1	万平公園	蚕養塔	その他	昭和36年	1961	昭和36年、埼玉県養蚕業協会が設置。	実地調査
40	大里郡	熊谷市	妻沼小島1907-2	稲荷神社	蚕影山神社	石碑	明治26年	1893	明治26年に霜害を受けた蚕を埋めた。	実地調査
41	大里郡	深谷市	上柴1-18	諏訪神社	蚕養	境内社				埼玉の神社
42	大里郡	深谷市	境81-2	玉津島神社	蚕影神社	境内社	明治26年	1893	明治時代の霜害で死んだ蚕を土に埋めてその上に立てたもの。平成28年に社殿再建。	埼玉の神社
43	大里郡	深谷市	境81-2	秋蚕碑	秋蚕碑	石碑	明治35年	1902	明治26年の霜害、秋蚕の導入について記す。	実地調査
44	大里郡	深谷市	堰合646-2	常世岐姫神社	蚕影神社	境内社				埼玉の神社
45	大里郡	深谷市	国濟寺620	日吉大神荒神社	蚕影神社	境内社				埼玉の神社
46	大里郡	深谷市	山河636-1	稲荷神社	蚕影山神社	境内社			衣襲神社ともいう。暮霜のため桑の芽が出ず、死んだ蚕の慰霊のために建立した。	埼玉の神社
47	大里郡	深谷市	西田428	気多神社	蚕影	境内社			祠の屋根瓦に、15個の繭が彫ってある。	埼玉の神社
48	大里郡	深谷市	香掛303-1	熊野大神社	蚕影	石祠				埼玉の神社
49	大里郡	深谷市	針ヶ谷258-1	八幡大神社	蚕影	境内社			天神、山神、蚕影と同じ祠に並んで祭祀されている。	埼玉の神社
50	大里郡	深谷市	榎沢新田975	二柱大神社	蚕影山神社	境内社			4月11日に祭りがあり、繭玉を配った。	埼玉の神社
51	大里郡	深谷市	武蔵野1862	八幡神社	蚕影	境内社				埼玉の神社
52	大里郡	深谷市	水田664	八幡神社	蚕影	境内社				埼玉の神社
53	大里郡	深谷市	小前田1	諏訪神社	蚕影	境内社	明治15年	1882	4月14日が祭礼日。「百貫蚕」と呼ばれる大規模な養蚕農家が多かった。明治15年5月の霜害で死んだ蚕を境内に埋めて蚕を祭った。昭和10年ごろは近隣に講も結成して賑わった。屋根に「蚕」の文字瓦がある。	埼玉の神社
54	大里郡	深谷市	萱場441	清心寺	祭蚕魂記念碑	石碑	明治34年	1901	「祭蚕魂記念碑 明治三十四年七月」	カイコロジー
55	大里郡	深谷市	新成856-3	蚕影神社	蚕影神社	神社	明治29年	1896	手水鉢に「奉納 明治二十九年三月吉日」とある。	カイコロジー
56	大里郡	深谷市	血洗島	路上	蚕影神社	石祠	明治23年	1890	「蚕影神社 明治廿三年建之」平成28年に修復工事	カイコロジー
57	大里郡	深谷市	江原881	聖天堂	蚕影神社	石碑	明治25年	1892	「蚕影神社」「明治二十五年正月二十四日 江原当節中」	カイコロジー
58	大里郡	深谷市	江原344	富士神社	蚕影神社	石碑	明治33年	1900	「蚕影神社」「明治三十三年、石工直吉、神号石奉納人 飯塚峯吉」	カイコロジー
59	大里郡	深谷市	島山942	井棟神社	蚕影山神社	境内社				カイコロジー
60	大里郡	深谷市	原郷	民家	蚕影霊神碑	石碑	大正10年	1921	斎藤菊次郎の顕徳碑を兼ねる。明治43年の災害で死んだ蚕を祀る。	実地調査
61	大里郡	深谷市	大谷417	熊野神社	蚕影神社	境内社				カイコロジー
62	大里郡	深谷市	上野台3225-1	八幡神社	蚕影神社	境内社			明治40年に合祀。	カイコロジー
63	大里郡	寄居町	小園132	老岐天手長男神社	蚕影	境内社			3月15日に機神を祀る。	埼玉の神社
64	大里郡	寄居町	金尾256-1	白髪神社	蚕大神	境内社				埼玉の神社
65	大里郡	寄居町	赤浜723	出雲乃伊波比神社	蚕影大神	境内社			蚕影大神、三峰大神、古峰大神、天満社、愛宕大神、白山大神、伊奈利社と同じ祠に並んで祀られている。	実地調査